

村山優子 IFIP 日本代表(岩手県立大学)

こ数年、運営改革が課題とされてきた。

今回、Leon Strous 会長より、この2年ほどの間に、IFIP 内の GA も含む関係グループと行ってきた議論を基にした今後の会費や会員資格についての改革案が示された。まず、会員資格は、現在のところ、正会員 (Full Member)、準会員 (Associate Member)、名誉会員 (Honorary Member) の3種類があり、その投票権等も指定されている。各国での主たる IT 関係の学会が正会員となる。日本では、本会である。改革案では、こうした代表的な IT 関連の学会がないか、1つの学会で会員となれない場合は複数の学会のグループでもよいこと等、いくつかの選択肢を提案している。さらに、投票権を有する正会員がすでにある国においても他の学会が準会員になることも可能である。

また、正会員の会費については、これまでの国際連合の負担額に準ずる方式から、各学会の規模に応じて、その会費収入の1%を支払うこととし、上限や下限を決めておくという案が新たに検討されている。

さらに、IFIP の活性化を目指し、組織を①技術委員会関連、②方針・戦略、③ InterYIT (International Young ICT Professionals group)、④メンバ学会関連、⑤ IP3 (International Professional Practice Partnership)、⑥ Digital Equity の6つの Council と呼ばれる審議会を立ち上げることを提案している。

以上の提案については、来年 (2015 年) 10 月開催予定の GA での承認を目指し、各国の会員学会より意見を徴収している。

IP3 の取り組み

IP3 では、各国の IT プロフェッショナル認証制度を尊重しつつ、国際的な通用性を確保するために、認証制度の要件の標準化を行い、各国の認証制度を認定している。本会は、IP3 の取り組みが認定情報技術者 (CITP) 制度の国際的通用性を確保する上でも有意義と考え、2009 年 6 月より参加し、現在はボード・メンバを務めている。ほかに、オーストラリア ACS (議長)、カナダ CIPS、南アフリカ共和国 CSSA、ニュージーランド IITP、ジンバブ

エ CSZ、韓国 KIISE、エジプト ITI が参加しており、今年、スリランカ CSSL、ISACA、オランダ NGI/VRI の参加を得た。

IP3 は1～2カ月に1度、電話会議によるボード・ミーティングを開催している。また、9月10～13日にウィーンにて開催された face-to-face 会議では、活動計画の検討と年次総会を実施した。IP3 は2003年からIFIPの中のタスクフォースであった。IP3 は、IFIP 本体の活動ではなく、IFIP からの資金と IP3 の会員国からの会費の両方で運用されている。IP3 では、TC と同様の IFIP の本体事業となるために、メンバ増強と認知度向上に努めており、IFIP GA においても、IFIP の Leon Strous 会長や IFIP メンバ学会の代表者が参加した President's meeting を IFIP GA 前日に開催し、昼食を含め5時間にわたって意見交換を行った。また、IFIP GA では IP3 ワークショップおよびプレゼンテーションを実施し、関係者の理解を深めた。

現在、IP3 の認定制度の根拠となっている ISO/IEC 24773 (ソフトウェア技術者認証) の改訂に関する検討が進みつつある。これを踏まえ、2014 年 4 月には、IP3 が ISO/IEC 24773 への適合性に関する認定団体 (accreditation body) を目指すことを本会から提案した。また、ウィーン会議には本会から掛下哲郎教授 (ISO/IEC 24773 co-editor) が参加し、CITP の状況に加えて、ISO/IEC 24773 の改訂、ITSS、i-コンピテンシーディクショナリ、技術士会との連携などの取り組みを踏まえたプレゼンテーションを行い、本会の考え方や IP3 に対する期待について説明した。このプレゼンテーションは IP3 の首脳陣からも歓迎された。

Vice President の選出

出版委員会 (Publication Committee) の座長を務める Vice President の A. Joseph Turner 教授の退任に伴う後任の選挙が実施された。出版委員会で Turner 教授を支えてきた Councillor の Kai Rannenberg 教授 (ドイツ) が選出される予定であったが、日本代表の村山が2人目の候補に挙げられ、結局、村山が選出された。

出版関連

これまで IFIP では電子図書館がなかったが、ようやくこれが実現する見込みである。昨年（2013 年）末から募集した結果、フランスの INRIA (Institut National de Recherche en Informatique et en Automatique) が IFIP 電子図書館の提供者として選ばれた。6 万 7 千ユーロの初期投資と、年間 1 万 7 千ユーロのコストが必要となる。2015 年 3 月からの稼働に向け、準備が進んでいる。

また、これまで IFIP の出版物は Springer から出されており、Springer との新たな契約更新も行われた。Springer の電子サービス SpringerLink にある IFIP 関連のコンテンツは、出版後 4 年するとオープンアクセスとなる。なお、IFIP 関連の国際会議のプロシーディングスのための AICT シリーズについては、技術委員会 (TA: Technical Assembly) の提案に沿って、品質を管理する委員会が設置される。

マーケティング関連

Leon Strous 会長より、今後の IFIP のマーケティングについて、オーストラリアのコンサルタント会社、Quantum Values と契約して進めたいと提案があり、その内容が紹介された。本件に関しては、昨年の GA でマーケティングを促進することが決定されており、今回、具体的な計画案が提示されたが、早急であるとされ、今後、検討されることとなった。

その他

DCSC (Developing Countries Support Committee) は、スペイン代表の IFIP Vice President の Ramon Puigjaner のもと、国際連合系の IFIP らしい国際支援活動を行っている。財務面での支援のための DCSC 助成金は、IFIP イベントの中で、開発途上国での国際会議開催支援や、開発途上国からの講演者や発表者の旅費支援のために利用されている。2014 年度は 1 万 2 千ユーロの助成を行う予定と報告された。

IFIP 準会員の IMIA (International Medical Informatics

Association) で IFIP とのリエゾンを務められている武田裕先生（大阪大学名誉教授、現滋慶医療科学大学院大学学長）より、IMIA と IFIP の共通する内容の発表があり、今後、IFIP でもつながりを強くするための施策を考えていくこととされた。これについては、以前廃止となった医用情報に関する TC-4 の件もあり、今後検討されていくと思われる。

また、IFIP の準会員の SEARCC (the South East Asia Regional Computer Confederation) ともかかわる若手の IT 関係者の集まり InterYIT の Abeywickrama 代表（スリランカ）より、年次報告が行われた。Facebook 等の SNS を通した活動や、IP3 への関与、さまざまな会議への協賛等が報告された。年配の参加者が多い GA には異色の存在感がある。

このほか、TC 11 Chair として村山より、災害情報処理の分野の紹介と、今後、本分野にかかわる他機関との連携の可能性も示唆した。

今後の会議

WCC2015 が韓国の Daejeon で、2015 年 10 月 4 日～7 日に開催され、GA2015 も 10 月 9 日～10 日に併催される予定である。韓国では、2014 年 4 月に起こった旅客船転覆事故以来、新たなイベント開催への予算の締め付けがあり、WCC については、当初予定していた開発途上国の若手プロフェッショナル等への支援が十分できないとのことである。

参考文献

- 1) 齊藤忠夫：IFIP —情報処理国際連合—近況報告，情報処理，Vol.55, No.3, pp.292-294 (Mar. 2014)。

TC 1(Foundations of Computer Science)

代表：小林直樹（東京大学）

TC 1 は理論計算機科学に関する TC である。TC 1 会議は TCS 2014 (Conference on Theoretical Computer Science) 開催期間中の 8 月 31 日にイタリアのローマで開催された。主な議題は、TC 1 が隔年で主催している国際会議である TCS 2014 の報告、WG の状況、次回の TCS についてであった。TCS 2014 については CONCUR 2014 (Conference on Concurrency

Theory) と同時開催で、投稿数が 76、採択論文数 24、参加者数 45。今回は 2016 年開催の予定だが、これまで通りではなく、WG の会議を統合した形式がよいのではないかという議論がなされた。WG については、新しく“String Algorithms and Applications”に関する WG 1.10 が提案され、承認された。

WG 主催のイベントとしては、WG 1.5 主催の国際ワークショップ Automata 2014 (姫路市, 7 月), WG 1.6 主催の書き換えシステムに関する研究集会 (オーストリア, 6 月) などが開催された。

TC 2 (Software : Theory and Practice)

代表：胡振江 (国立情報学研究所)

今年の TC 2 Meeting は、EuroSPI 会議 (European System, Software & Service Process Improvement & Innovation) の前に、6 月 24 日にルクセンブルクにて開催された。まず、各 WG のメンバに関して議論された。京都大学の五十嵐淳氏を含む 12 名の新しい WG メンバが承認されたとともに、10 名が連続 3 回以上欠席されたため除名された。東京大学の萩谷昌己氏とオックスフォード大学の Luke Ong 氏が WG 2.2 の名誉メンバとなった。また、WG 2.3 の新しい Chair がサウスハンプトン大学の Michael Butler 氏となった。

また、Silver Core Award などの Award の推薦が議論された。2013 年度の Outstanding Service Award には Anthony Finkelstein 氏 (WG 2.9), Brian Ford 氏 (WG 2.5) と Chris Lengauer 氏 (WG 2.11) が受賞された。Manfred Paul Award の対象を ASE 2014 (Conference on Automated Software Engineering) ベストペーパーの著者と決めた。

最後に、Poznan University of Technology の Jerzy Nawrocki 氏による Board Programming and Its Early Evaluation と題するスピーチがあった。

TC 3 (Education)

代表：斎藤俊則 (日本教育大学院大学)

TC 3 の 2014 年の主な活動はポツダム市 (ドイツ) におけるカンファレンス KEYCIT 2014 (Key

Competencies in Informatics and ICT) の開催 (7 月 1 日～4 日, 於ポツダム大学) であった。28 カ国から約 90 名の参加があった。このカンファレンスは中等教育, 高等教育, および教師教育に焦点を当てたものであり、企画オーガナイズは WG 3.1 および WG 3.3 が担当した。同じ会期に KCICTP 2014 (Key Competencies for Educating ICT Professionals) および ITEM 2014 (Key Competencies in Informatics and ICT : Implications and Issues for Educational Management) が同時開催された (前者は WG 3.4, 後者は WG3.7 が主催)。

この会期後の 7 月 5 日および 6 日にあわせて TC 3 の定例会議が開催された。出席者は筆者を含めて 24 名であった。会議では主査および副査からの定例報告、各 WG からの活動報告、KEYCIT2014 の成果報告、今後の TC 3 関連イベントについての進捗報告などが行われ、それらの報告の中で特に新たに 4 つに統合された WG の今後の活動の在り方や次回カンファレンスのコンセプトについて議論が行われた。また、WCCE2017 (World Conference on Computers in Education) に向けた活動方針である「オープン・トルン・ビジョン」についてその内容の確認と今後の研究の力点についての議論が行われた。

次回カンファレンス (A New Culture of Learning: Computing and Next Generations) は 2015 年 7 月 1 日から 3 日にかけてヴィリニュス市 (リトアニア) で開催予定である。

TC 5 (Information Technology Applications)

代表：中野 冠 (慶應義塾大学)

TC 5 年次会議が 2014 年 9 月 27 日～28 日にチューリッヒで開催され、WG 議長と各国代表が集まり、状況の確認などが行われた。欧州からフランス, ドイツ, ハンガリー, ブルガリア, スイス, オランダの 10 名, アジアから日本と中国が参加した。WG は 10 あるが、詳細な報告があったのは、WG 5.1 (Global product development for the whole life-cycle), WG 5.5 (Virtual Enterprises), WG 5.7 (Advanced Production Management Systems), WG 5.8 (Enterprise

Interoperability), WG 5.14 (Advanced Information Processing for Agriculture) である。2013 年の年次会議はインドで行われ、2015 年の年次会議は当初中国に決定していたが、GA 会議に合わせて韓国で行われるよう変更になった。欧州メンバには BRICS (ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ) への関心が非常に高いことが感じられた。日本も、2014 年に WG 5.1 のカンファレンスが横浜で開催され、2015 年に WG 5.7 のカンファレンスが東京で開催される予定であり、一定のプレゼンスを保っている。チューリッヒ会議での議論の中心は、WG 間の連携・協力の在り方であった。WG 横断型のカンファレンス PROLAMAT (PROgramming LAnguages for MACHineTools) が 2 年おきに開かれているが (2013 年はドレスデンで開催)、TC 5 のメンバが各 WG と横断型のカンファレンス両方に出席するのは容易でないという意見が多く出され、継続審議となった。

TC 6 (Communication Systems)

代表：齊藤忠夫 (トヨタ IT 開発センター) /
代表：相田 仁 (東京大学)

TC 6 は数多くの IFIP の TC の中で、ワークショップ開催数も多く、重要な TC である。TC 6 は例年 2 回の会合を開催しており、2014 年の第 1 回は 6 月 4 日、5 日にノルウェーの Trondheim で、第 2 回は 11 月 12 日～14 日にドイツの Dagstuhl で開催された。日本代表は 7 月に齊藤から相田に交代し、第 1 回には齊藤が参加したが、第 2 回には日本からは参加していない。

TC 6 の分野は、競争の激しい分野であり、学会の会議の間の競争も激しい。会議に良い論文を集めるには、会議ランキングを高めることが重要である。サイテーションインデックスも会議のランキングの大きな要素になる。このためには論文へのアクセスの容易性が重要である。

TC 6 の Trondheim の会議ではこの問題が主として議論された。Springer の出版物でも IFIP も著作権は保持しており、TC 6 Open Access Digital Library を試験的に構築し、これについて 9 月の IFIP GA で

報告している。このような活動は短期的には出版物の著作権収入を低下させる可能性もあるが、これにより会議のランキングが上がれば長期的には IFIP 全体を活性化して、IFIP の経営にも寄与する。論文のサーキュレーションの向上を通して IFIP の評価が高まることを期待したい。

TC 7 (System Modelling and Optimization)

代表：亀田壽夫 (筑波大学)

TC 7 Conference および TC 7 meeting は隔年で開催されるが、今年はその開催年でなく、第 27 回の TC 7 Conference が、来年 2015 年 6 月 29 日～7 月 3 日に、フランス共和国の Sophia Antipolis で開催される予定である。(当初 7 月 6 日～10 日で提案されたが、ほかの国際会議の開催日との重なりを避けるなどの紆余曲折を経て、決定された) その運営について、PC メンバの間で E-mail によって、かなりの議論が行われてきている。議論が重ねられ plenary speaker の候補が挙げられている段階である。方向が決定されれば順次交渉が行われ最終的に 10 名程度が決まることになる。以前からの傾向のように会議全体が多くのミニシンポジウムで構成される方向で進んでいる。外部からのミニシンポジウム提案や一般発表も募集される。

傘下の WG については、TC 7 委員会は、その設立・改廃の際にかかわるのみであり、各 WG はほぼ独立に各々の活動を続けている。会議期間中に行われる TC 7 meeting において各 WG の活動の報告が行われるが、TC 7 conference や TC 7 委員会へのかかわりに対する積極さにも、各 WG の間に依然として違いがある。2014 年より WG 7.4 “Inverse Problems and Imaging” が新たに始まることになった。

TC 8 (Information Systems)

代表：内木哲也 (埼玉大学)

TC 8 は組織および社会の活動基盤である情報システム (Information Systems) の計画立案から、分析設計、開発、運用管理、利用評価、社会変革をも

含む、人間—技術システムのマネジメント活動全般を対象としている。本年は、WG 8.6 の Working Conference 開催に合わせ、5月31日～6月1日にデンマーク王国 Copenhagen の Dansk IT (Danish Computer Society) において8カ国の代表委員と6WG代表委員の13名により第45回 TC 8 年次総会が開催された。本年の主要な議題は、かねてより議論され続けている TC 8 の存続意義についてであり、まず社会貢献事業として国際会議評価基準の策定と途上国若手研究者の育成に関する進捗状況報告がなされ、今後の実施方策について審議した。また、IFIP 本体を含めた問題点の洗い出しと分析、AIS (Association for Information Systems) など他学会との関係構築などにも及ぶ提案および議論が活発になされ、TC 8 の必要性とともに今後も審議を継続することが承認された。なお、議長より今期任期満了となる Secretary Isabel Ramos の再任が提案され、全会一致で承認した。来年は ECIS (European Conference in Information Systems) の開催予定に合わせてスウェーデン王国 Stockholm で5月下旬に開催することを暫定的に決定したが、企画中の WCC2015 での TC 8 Track が開催の運びとなった場合には10月に WCC 開催地の韓国 Daejeon で開催される予定である。

TC 9 (ICT and Society)

代表：小向太郎 (情報通信総合研究所)

TC 9 の Business Meeting は8月にフィンランドのヘルシンキで行われ、同時期に開催された Human Choice and Computers (HCC11) International Conference の内容の確認や運営方針に関する議論と、各 WG の活動状況ならびに今後の方向付けに関して話し合われた。なお、HCC11 および Business Meeting には日本代表として出席し、各国代表のパネルにも参加している。2年後(2016年)に実施予定の HCC12 の開催地としては、英国から Manchester が提案され今後最終的な決定に向けて手続を行うことが合意された。各国の代表と WG Chair から報告が提出され、これらをもとに TC 9 の議論をどのように活性化させていくかが議論され

た。各国代表と WG Chair の意見をオンラインで集約し、今後も継続して議論することとなった。

TC 10 (Computer Systems Technology)

代表：金川信康 (日立製作所)

TC 10 はコンピュータシステムの技術、すなわち各階層における設計・評価技術とその概念、方法論、ツールに関する情報交換と協調促進を目的としている。執行部は2013年より Chair: Ricardo Reis (ブラジル代表)、Secretary: Paolo Prinetto (イタリア代表)以下21名のメンバから構成されている。

2014年の TC Meeting は目下日程調整中である。

TC 10 は 10.2 – Embedded Systems, 10.3 – Concurrent Systems, 10.4 – Dependable Computing and Fault Tolerance, 10.5 – Design and Engineering of Electronic Systems の4つの WG より構成されている。

WG 10.2 は54名のメンバにより構成されているが日本からの参加がないことが今後の課題である。

WG 10.3 のメンバは57名で、日本からは4名参加している。本会ではシステムソフトウェアとオペレーティングシステム研究会が分野としては関連している。

WG 10.4 は57名のメンバからなり、日本から5名参加している。このほかに18名(うち3名は日本国籍)の名誉メンバがいる。電子情報通信学会のディペンダブルコンピューティング研究会が連携している。本会ではコンピュータセキュリティ研究会が分野として関連しており、実質的な連携活動の可能性について話し合っている。

WG 10.5 は43名のメンバに加えて10名の名誉メンバを擁し、日本からは3名のメンバと2名の名誉メンバが参加している。本会ではシステムと LSI の設計技術研究会が活発に連携している。

TC 11 (Security and Privacy Protection in Information Processing Systems)

代表：村山優子 (岩手県立大学)

TC 11 は情報セキュリティに関連する分野を取り扱う TC である。TC 11 の活動は全体活動とワ

ーキング・グループ(WG)活動に分かれており、全体活動では TC 11 の運営を決める Annual Meeting と国際会議 SEC (International Information Security Conference) を開催している。WG 活動では各 WG が国際会議やワークショップ等を開いている。

今回の SEC2014 は、29 回目で、2014 年 6 月 2 日～4 日の 3 日間、モロッコ王国マラケシュ市内のホテル、Mérïdien N'Fis Hotel で開催された。今回は、フランスの代表 Nora Nora Cuppens-Boualahia が中心となり開催された。組織委員長は、米国 George Mason University Fairfax の Sushil Jajodia 教授、プログラム委員長は、Nora Cuppens-Boualahia と Frédéric Cuppens、ローカルアレンジメントは、モロッコの Anas Abou El Kalam 博士が中心となり開催された。モロッコ政府の支援もあり、会議の始めに、国王代理等、政府高官のパネルも開催され、モロッコ側の本分野への期待を窺わせた。

SEC2014 に先立ち 6 月 1 日に、TC 11 の年次委員会が例年通り、朝 9 時から午後 6 時前まで開催された。今回は、日本代表の村山が Chair としての会議であったが、委員会メンバの協力も得て、滞りなく進めることができた。SEC 会議の内容や運営についての議論や WG 報告等が行われた。

来年の SEC2015 は、前 Chair の Kai Rannenberg ゲーテ大学教授(ドイツ)が組織委員長で、ハンブルグ大学にて 2015 年 5 月 26 日～28 日に開催される。

SEC2016 は、ベルギーのアントワープにて開催が決定した。日程は、5 月末頃の予定である。

TC 11 では、昨年新たに 2 つの WG が創設され、現在 14 の WG が活動している。

TC 12 (Artificial Intelligence)

代表：栗原 聡(電気通信大学)

TC 12 は 1989 年に設立され、現在、Tharam Dillon 教授(カーティン工科大学、オーストラリア)が議長を務めている。AI (人工知能)全般をカバーしており、現在 33 カ国が参加し、6 つの WG (知識表現と推論、機械学習とデータマイニング、インテリジェントエージェント、セマンティック Web、AI 応用、知識マネジメント)に、最近、コンピュータビジョン、知的生命医薬情報学、計算知能が新たに発足し、9 つの WG が運営されている。

TC 13 (Human-Computer Interaction)

代表：北村喜文(東北大学)

TC 13 のミーティングが 2013 年 2 月 18 日～20 日に New Zealand の Waikato 大学で開催され、15 名が参加、6 名が部分的遠隔参加であった。今回は参加者による workshop と合わせて開催された。TC 13 主催の国際会議 INTERACT (International Conference on Human Computer Interaction) は 2 年ごとに開催されてきている。2015 年はドイツ代表である Tom Gross を General Conference Chair として、9 月 14 日～18 日にドイツの Bamberg で開催されるが、その準備状況について報告があった。German HCI Conference が国内会議として INTERACT 会期の直前に開催される予定であり、互いに相乗効果を図るように工夫することであった。2017 年の開催については 2 カ国から提案があり、プレゼンテーションと質疑・審議を経て、2017 年 9 月下旬にインドで開催されることに決まった。また、今後は毎年開催に移行することとし、2018 年はキプロスで開催されることが内定した。

TC 14 (Entertainment Computing)

代表：星野准一(筑波大学)

TC 14 は、2002 年 SG 16 (Specialist Group on Entertainment Computing、議長：中津良平氏)として出発し、設立以来 5 年が経過した 2006 年 8 月にチリ、サンチャゴで行われた IFIP 総会において、TC への昇格が認められ、TC 14 として活動を開始することとなった。中津氏の議長の任期が終了したので、2012 年度に 2002 年より副議長を務めていた Matthias Rauberberg 氏(オランダ)が議長に選出された。副議長は Hyun S. Yang 氏(韓国)であり、中津良平氏は WG 14.3 の議長を務めている。

昨年 1 年間の TC 14 の構成員の変更・主たる活動は以下の通りである。

(1) TC 14 の主催する国際会議 ICEC2014 (International Conference on Entertainment Computing)を開催した。

(2) 2014 年 9 月時点で TC 14 の国際委員の数は 33 名、WG の数は 8 である。

TC 1 : Foundations of Computer Science

- WG 1.1 Continuous Algorithms and Complexity
- WG 1.2 Descriptive Complexity
- WG 1.3 Foundations of System Specification
- WG 1.4 Computational Learning Theory
- WG 1.5 Cellular Automata and Discrete Complex Systems
- WG 1.6 Term Rewriting
- WG 1.7 Theoretical Foundations of Security Analysis and Design
- WG 1.8 Concurrency Theory
- WG 1.9 Verified Software (joint with WG 2.15)

TC 2 : Software : Theory and Practice

- WG 2.1 Algorithmic Languages and Calculi
- WG 2.2 Formal Description of Programming Concepts
- WG 2.3 Programming Methodology
- WG 2.4 Software Implementation Technology
- WG 2.5 Numerical Software
- WG 2.6 Database
- WG 2.7 User Interface Engineering (joint with WG 13.4)
- WG 2.8 Functional Programming
- WG 2.9 Software Requirements Engineering
- WG 2.10 Software Architecture
- WG 2.11 Program Generation
- WG 2.12 Web Semantics (joint with WG 12.4)
- WG 2.13 Open Source Software
- WG 2.14 Service-Oriented Systems (joint with WG 6.12/8.10)
- WG 2.15 Verified Software (joint with WG 1.9)
- WG 2.16 Programming Language Design

TC 3 : Education

- WG 3.1 Informatics and digital technologies in School Education
- WG 3.3 Research into Educational Applications of Information Technologies
- WG 3.4 Professional and Vocational Education in ICT
- WG 3.7 Information Technology in Educational Management

TC 5 : Information Technology Applications

- WG 5.1 Global Product Development for the whole life-cycle
- WG 5.4 Computer Aided Innovation
- WG 5.5 Cooperation infrastructure for Virtual Enterprises and electronic business (COVE)
- WG 5.7 Advances in Production Management Systems
- WG 5.8 Enterprise Interoperability
- WG 5.10 Computer Graphics and Virtual Worlds
- WG 5.11 Computers and Environment
- WG 5.12 Architectures for Enterprise Integration
- WG 5.13 Bioinformatics and its Applications
- WG 5.14 Advanced Information Processing for Agriculture

TC 6 : Communication Systems

- WG 6.1 Architectures and Protocols for Distributed Systems
- WG 6.2 Network and Internetwork Architectures
- WG 6.3 Performance of Communication Systems
- WG 6.4 Internet Applications Engineering
- WG 6.6 Management of Networks and Distributed Systems
- WG 6.8 Mobile and Wireless Communications
- WG 6.9 Communication Systems in Developing Countries
- WG 6.10 Photonic Networking
- WG 6.11 Communication aspects of the e-World
- WG 6.12 Service-Oriented Systems (joint with WG 8.10/2.14)

TC 7 : System Modelling and Optimization

- WG 7.1 Modeling and Simulation
- WG 7.2 Computational Techniques in Distributed Systems
- WG 7.3 Computer System Modeling
- WG 7.4 Inverse Problems and Imaging
- WG 7.5 Reliability and Optimization of Structural Systems
- WG 7.6 Optimization - Based Computer Aided Modeling and Design
- WG 7.7 Stochastic Optimization

TC 8 : Information Systems

- WG 8.1 Design and Evaluation of Information Systems
- WG 8.2 The Interaction of Information Systems and the Organization
- WG 8.3 Decision Support Systems

- WG 8.4 E-Business Information Systems: Multi-disciplinary research and practice
- WG 8.5 Information Systems in Public Administration
- WG 8.6 Transfer and Diffusion of Information Technology
- WG 8.9 Enterprise Information Systems
- WG 8.10 Service-Oriented Systems (joint with WG 6.12/2.14)
- WG 8.11 Information Systems Security Research (joint with WG 11.13)

TC 9 : ICT and Society

- WG 9.1 Computers and Work
- WG 9.2 Social Accountability and Computing
- SIG 9.2.2 Special Interest Group on Framework on Ethics of Computing
- WG 9.3 Home Oriented Informatics and Telematics
- WG 9.4 Social Implications of Computers in Developing Countries
- WG 9.5 Virtuality and Society
- WG 9.6 Information Technology: Misuse and The Law (joint with WG 11.7)
- WG 9.7 History of Computing
- WG 9.8 Gender Diversity and ICT
- WG 9.9 ICT and Sustainable Development
- WG 9.10 ICT Uses in Peace and War

TC 10 : Computer Systems Technology

- WG 10.2 Embedded Systems
- WG 10.3 Concurrent Systems
- WG 10.4 Dependable Computing and Fault Tolerance
- WG 10.5 Design and Engineering of Electronic Systems

TC 11 : Security and Privacy Protection in Information Processing Systems

- WG 11.1 Information Security Management
- WG 11.2 Pervasive Systems Security
- WG 11.3 Data and Application Security and Privacy
- WG 11.4 Network & Distributed Systems Security
- WG 11.5 IT Assurance and Audit
- WG 11.6 Identity Management
- WG 11.7 Information Technology: Misuse and The Law (joint with WG 9.6)
- WG 11.8 Information Security Education
- WG 11.9 Digital Forensics
- WG 11.10 Critical Infrastructure Protection
- WG 11.11 Trust Management
- WG 11.12 Human Aspects of Information Security and Assurance
- WG 11.13 Information Systems Security Research (joint with WG 8.11)
- WG 11.14 Secure Engineering

TC 12 : Artificial Intelligence

- WG 12.1 Knowledge Representation and Reasoning
- WG 12.2 Machine Learning and Data Mining
- WG 12.3 Intelligent Agents
- WG 12.4 Web Semantics (joint with WG 2.12)
- WG 12.5 Artificial Intelligence Applications
- WG 12.6 Knowledge Management
- WG 12.7 Social Networking Semantics and Collective Intelligence
- WG 12.8 Intelligent Bioinformatics and Biomedical Systems
- WG 12.9 Computational Intelligence

TC 13 : Human-Computer Interaction

- WG 13.1 Education in HCI and HCI Curricula
- WG 13.2 Methodology for User-Centered System Design
- WG 13.3 Human-Computer Interaction and Disability
- WG 13.4 User Interface Engineering (joint with WG 2.7)
- WG 13.5 Resilience, Reliability, Safety and Human Error in System Development
- WG 13.6 Human-Work Interaction Design
- WG 13.7 Human - Computer Interaction & Visualization (HCIV)
- WG 13.8 Interaction Design and International Development
- WG 13.9 Interaction Design and Children

TC 14 : Entertainment Computing

- WG 14.1 Digital Storytelling
- WG 14.2 Entertainment Robot
- WG 14.3 Theoretical Basis of Entertainment
- WG 14.4 Entertainment Games
- WG 14.5 Social and Ethical Issues in Entertainment Computing
- WG 14.6 Interactive TeleVision
- WG 14.7 Art and Entertainment
- WG 14.8 Serious Games